

知らないうちに助け合っている

あま市立甚目寺中学校 3 年 横井 李江

「税金」という言葉を、よくニュースや新聞で見聞きするだけで、実際どこでどのように使われているのか、知らない人が多いのではないのでしょうか。私も数年前まで、「税金ってなんのために払っているのだろう」と疑問に思っていました。今ではすごくありがたいものだと思っています。そう思うようになったきっかけは、自転車で怪我をしたことでした。

ある日、自転車に乗っていたら、バランスを崩して、頭や膝など数カ所を打って大怪我をしました。頭を打ったせいか意識が朦朧とし、気づけば救急車に運ばれていました。無事病院に着き、意識も回復していたため、看護師さんに「少し待っていてください」と言われて、お医者さんが来るのを待っていました。待っている間、意識が完全に戻っていたといえ、私の身体は大丈夫なんだろうかと不安でとても怖かったです。レントゲンや診察をして、身体が正常なことを確認し、待合室の受付で怪我の保護をするために使うガーゼなどをもらっていたとき、隣で受付をしていた大人に比べて、お母さんがほとんどお金を払っていないことに気がつきました。不思議に思って、お母さんに「どうして私は大怪我をして、お医者さんに診てもらったのに、払うお金が少ないの？」と聞きました。そしたらお母さんは、「子供も医療費とかは、国や自治体が負担してくれているんだよ。でも子供だけじゃなくて、大人も保険で税金が使われている場合があるよ。」と教えてくれました。それを聞いて、私はハッとしました。もしかしたら、待合室で隣に座っていた人が納めた税金のおかげで、私はガーゼをもらえたのかもしれない。もしかしたら、病室にいた小さい子の手術費用の中に、私が過去に払った消費税が入っているかもしれない。こうして知らないうちに、私たちはお互い助け合っているのかもしれない。そう思ったら、さっきまで不安で、とても怖かったはずの心が、温かくなったような気がしました。

調べてみると、医療費だけでなく、私たちが普段何気なく使っている教科書、お年寄りの年金や介護サービス。子供を保育園に預けるとき、毎月かかる費用の多くが子育て支援。警察や消防、救急車、災害対策など、まちの安心・安全を守ってくれている仕組み。老者男女が使う、道路や信号機などのインフラ整備。あらゆるところで、日常的に税金が深く関わり、役立っていることを知りました。聞いたことあるだけで、なんとなく払っていた税金を、「未来を繋ぐ、人と人との大切な関わり」と思うようになりました。

これからは、税金を「なんとなく払う」ではなく、「誰かと助け合っている」と思いながら、私と同じように不安をかかえている誰かの助けになり、少しでもその人の心を温かくできたらいいなと思います。